

## 平成 31 年度組織機構及び人事発令に関する記者発表の記録

日 時 平成 31 年 3 月 27 日（水）午後 4 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 5 人

同席者 飯川副市長、総務部長、職員課長、行政管理担当主幹、職員係長、  
企画調整担当主幹

次 第 平成 31 年度組織機構及び人事発令について



## 平成 31 年度組織機構及び人事発令について

### 説明内容

#### (市長)

新年度に向けての組織機構及び人事発令を発表させていただきます。

組織機構につきましては、「総合計画」や「行政改革大綱」を踏まえたうえで、効率的で機能的な組織を目指し、少数精鋭の職員体制において市民の皆さまの満足度を高めることを基本に一部見直しをしたところです。

変更点の 1 点目は、昨年経験した胆振東部地震、またそれに伴って発生したブラックアウトなどの災害に備え、防災対策の充実・強化を進めるため、総務部「防災対策室」の事務事業を 2 つに分けました。

非常時の対応や防災訓練などを所管する「防災対策係」に加え、地域防災計画や業務継続計画などの防災関連計画を所管する「計画係」を新たに設置します。

2 点目は、水道事業の円滑な実施に向け、現行の業務課「給水営業係」を再編し、水道料金及び下水道使用料の賦課徴収を所管する「業務課営業係」と給水装置の維持管理等を所管する「水道課給水係」を新たに設置します。

次に、一般行政職人事発令の内容は、資料に数字でまとめてありますので、参考にしていただきたいと思います。

最後になりますが、2 枚目に平成 31 年度の組織機構編成を掲載しています。

組織編成で部の数は変わりませんが、共同汚水処理施設の供用開始に伴う文向台衛生センター業務の統合により課が 1 つ減りました。また、業務の再編により係は 1 つ増えました。

### 質疑応答

なし

### その他

#### 質疑応答

##### (北海道新聞)

先日、苫小牧市で、東胆振 1 市 4 町の首長懇談会が開かれ、室蘭線や日高線の存続に向け、JR 北海道が策定するアクションプランの案がおおむね了承されたところですが、JR 室蘭線活性化連絡協議会の今後のスケジュールについて、教えてください。

##### (市長)

私どもの JR 室蘭線活性化連絡協議会は、規約において書面会議を行うことができるかと定めています。このたびのアクションプランについても、書面会議の取りまとめを行っているところです。

近日中に取りまとめを終え、それから、次のステップに入っていくかと思えます。

**(北海道新聞)**

4月に会議を開催する予定はありますか。

**(市長)**

まず、今年度内に、JR北海道のアクションプランに対して了承できるか否かということをはっきりさせた上での開催を考えています。

**(北海道新聞)**

先日、JR北海道が国と道、沿線自治体からの支援を年80億円と想定していることがわかりました。単純に、国と地元を半分ずつと考えると、地元は年間40億円になりますが、市長はこれをどのように受け止めましたか。

**(市長)**

報道された年80億円という数字は、JR北海道にも確認しましたが、JR北海道では公表していないとのことでした。私どもはJR北海道から一切聞いていないという状況です。

**(北海道新聞)**

わかりました。別件でもう一つ。

農林水産省公募事業の「スマート農業関連事業」として、道内では、岩見沢市を含む6件が採択されました。

岩見沢市はスマート農業の先進地であり、今回、農林水産省に採択され、事業が進むことで、どのような期待をしていますか。

**(市長)**

岩見沢のスマート農業は「土地利用型」を念頭に置き、岩見沢の農業に適応した形で進めています。今回の採択を契機に、北海道大学の野口教授をはじめ、いろいろな取り組みの輪が広がっていくと思います。

また、いわみざわ地域ICT農業利活用研究会とも歩調を合わせ、前向きに取り組んでいきたいと考えています。

**(北海道新聞)**

道知事選の両候補が政策を訴えているところですが、市長として特に関心のある政策はありますか。

**(市長)**

北海道は、広域行政で主体的な役割を果たす機関です。人口が減少していく今後、北海道としてどのような成長を目指していくのか、どういう活性化を図っていくのか。分野ごとの争点より、全体としての政策が一番気になる場所ですね。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)